

第2回 心肺蘇生・AED 授業セット開発委員会・WG 合同会議 議事録

1. 日時

令和元年6月18日(火) 15:30~18:00

2. 場所

アルカディア市ヶ谷 私学会館

3. 出席者(敬称略)

委員長 石見拓
委員 坂本哲也、野津有司、村井伸子、矢崎良明、吉原昌子
WG長 立川法正
WGメンバー 岡野正人、岸平直子、西山知佳、濱田哲、平舘宏美、本間洋輔
関係者 落合直文(文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課)、
阿部泰裕(一般財団法人日本AED財団)、宮垣雄一(一般財団法人日本AED財団)
事務局 小林広樹、小葉友香

4. 議事・案(敬称略)

4-1 第一回委員会・WGまとめ (参考資料:資料4)

- ① 名称:「心肺蘇生・AED 授業セット開発委員会」へ決定
- ② 全体スケジュール:10月の上市に合わせ急ぐのではなく、しっかりとした内容を作り上げていくことが大切
- ③ 委員会とWGの役割
 - ・ 委員会=承認・決定の場 (委員長:石見)
 - ・ WG =授業内容検討の場 (WG長:立川)
- ④ 制作コンテンツ:指導案又はDVDが決まれば、他の制作物は自動的に出来上がる
- ⑤ 対象について
 - (1) 考え方
 - ・ 発達状態に合わせた一貫性のある教育をしていくことが必要。
 - ・ 教材については、小学校~高等学校まで一緒にリリースをするのが良いのではないか
 - ・ 中高:学習指導要領に従いながら、小学校についてはどのようにアプローチしていくかを協議していく
 - ・ 難しい文言については、平仮名表記やルビを振るなどし、音だけでも覚えてもらう方が良い。
 - ・ 小学校、中学校、高等学校をそれぞれ分けて制作する

(2) キーワード

- ・ 指導要領の大きな考え方
 - 小学校：(個々のこどもの) 身近な生活
 - 中学校：(全ての人に共通する) 個人生活をベースに考える
 - 高等学校：社会的な側面も含め総合的に考える
- ・ 体育の技能と保健の技能の考え方
 - 体育：「できる」「できない」
 - 保健：思考スキルについてはスキル、技能は技能と差別化されており、技能評価しにくい教科であるため、ピンポイントで技能という言葉を使っている。
 - ◆ 小学校：不安や悩みの対処についての技能、けがの手当て
 - ◆ 中学校：ストレス対処の技能、応急手当の技能
 - ◆ 高等学校：応急手当の技能
- ・ 体育・保健体育のキーワード
 - 小学校：より実践的に学ぶ
 - 中学校：より科学的に学ぶ
 - 高等学校：より総合的に学ぶ

4-2 指導案について (参考資料：資料5 「指導案」)

① 千葉県 シアトル化プラン (岸平)

- ・ 指導案 制作年：平成 23 年 (その後 GL2015 発表に伴い、1 部改定あり)
 - 改定部：死戦期呼吸についての内容を指導に盛り込むこと
- ・ 目標：目標の本質は小・中同じ (※ただし、求める技能レベルに違いあり)
 - 心肺蘇生法と AED の使い方について体験する
 - 命が大切なものであることを知り、自他の生命を尊重する気持ちを育てる
- ・ 対象年齢：小 5、中 2
 - 繰り返し学習をすることで、知識・技術をより定着することが目的
 - 導入や技能レベルに違いがあるが、指導の内容としては繰り返し学習を意識しているため、ほぼ同じ内容となる
- ・ 指導案内容
 - 小学校：
 - 導入：救命曲線から 1 分 1 秒早く救命をすることの大切さを定着させる
 - AED がどういうものかを知る
 - AED の使用方法、心肺蘇生法一連の流れについて学ぶ
 - 心肺蘇生法と AED を体験する
 - 最後に「いのちのバトン (福井県 川崎さんの動画)」を見て、まとめを行う
 - まとめ：「3 つの勇気」が大切である
 - ◆ 倒れている人に声をかける勇気
 - ◆ 大声で応援を呼ぶ勇気

- ◆ 心肺蘇生法をやる勇気
- 中学校：全体的流れについては、小学校と同じ
 - ➔ 導入：助かった命と助からなかった命について違いを考え、AED の大切さを認識する
 - ➔ 実際に、AED を走って取りに行く
 - ◆ 足の速い生徒でも 5 分はかかる
 - ➔ 5 分の間にできることを考える
 - ➔ 実習には医師会制作の「みんなの BLS」という動画を使用
 - ※近年は動画へ PUSH プロジェクトのメッセージビデオを活用している
- ・ 指導案の活用（指導者別）
 - 消防局員、救急救命士を養成する専門学校の生徒⇒独自の指導法で指導
 - 学級担任、保健体育の教員⇒指導案をアレンジし活用

② つくば市 つくばスタイル科（岡野）

- ・ つくばスタイル科：
 - 9 年間を貫く次世代型のカリキュラム
 - 総合的な学習の時間をすべてと、生活科・道徳・特別活動の一部を組み入れた教科として設定
- ・ 指導案内容
 - 指導案の基となる単元プランは教育委員会が策定し全校へ配布
 - 竹園西小学校がつくばスタイル科の「健康安全防災」という単元プランの中に PUSH プロジェクトの内容を取り入れ公開授業を行った。
 - 健康安全防災という単元は、3・4 年、5・6・7 年、8・9 年生の 3 つに分かれている。
 - AED 及び心肺蘇生の内容については 5・8 年生（小学校 5 年生と中学校 2 年生）で行う。
- ・ 指導者：養護教諭（全員が指導者となるための講習会を受講済み）が中心

③ さいたま市 いのちの支えあいに関する授業（黒岩）

- ・ いのちの支えあいの授業：
 - 苦しい時やつらい時は友人や先生など信頼できる人や専門家に相談してよいということを伝えている
 - いのちとは体の部分だけではなく、心も関係している
 - 心と体を支えあう又はそばにいる人が何か行動を起こすということはとても大事だということを教えている。
- ・ さいたま市
 - 小学校 5 年生 救命入門コース 45（45 分授業）
 - 小学校 6 年生 救命入門コース 90（5 年生の 45 分と合わせ 90 分）

- 中学校 1 年生 実技救命講習 50 分×2 コマ
 - 小学校 5 年～中学校 1 年生までの授業を受けると普及救命講習 1 の完了書を消防局より配布される

④ 日本臨床医学会 学校への BLS 導入検討委員会 (石見)

- ・ 日本臨床医学会：救命医療に携わる医師、救命士、消防が中心の組織
- ・ 学校への BLS 導入検討委員会：上記+学校教諭が所属する委員会。10 年ほど活動
 - 主な取り組み：学校への導入についてコアとなるコンテンツの作成及び共有
 - 心肺蘇生の指導方法、指導内容に関するコンセンサス 2015：小学校低学年～高校までの到達目標を作成
 - 発達状態により指導方法が変わる
 - 現実には小学校の中高学年以上が対象となる
 - 小学校・中学校・高等学校の技能についての認識
 - 小学校：胸骨圧迫が出来る（十分に押しなくてもフローを理解できる）
 - 中学校：AED が使用できる
 - 高等学校：人工呼吸ができる
 - 小学校・中学校・高等学校と繰り返し学ぶことで一通りの一次救命処置ができるようになるという視点
 - 今後は、地域との関連性や周りの人とのかかわりなど、内容を膨らませていく必要がある
- ・ コンテンツ（参照：授業展開）+トークスクリプト（参照：トークスクリプト）
 - 45 分と 50 分バージョンがある
 - 救え！ボジョレー（制作：NPO 法人 大阪府ライフサポート協会）というアニメのコンテンツを使用
 - 短時間で大人数を教える際に有効な内容
 - トークスクリプト通りに話すと一通りの内容が教えられる
 - 講義用スライドは学会の HP へ掲載（自由に利用可能）

4-3 制作する教材について（ディスカッション）

① 指導案（含む教材）の普及について

- ・ 全国共通版というような形で統一していく見通しはあるのか？（矢崎）
 - 各自治体により教育の在り方があるため、自由度を残したまま 1 つの標準的な教え方のご提案として指導案を提示していく予定（小林）
 - 自治体の取り組みに差があるため、全国標準の指導案を学習指導要領に沿って作成したほうが受け入れやすいと考える（矢崎）
- ・ この教材は全国展開・ニーズのある人向けのどちらを狙っているのか？（濱田）
 - 数ある教材の標準化が目的であり、標準化することで授業での実施率が上がり、その結果、次の学習指導要領へ入れてもらうきっかけとなればよい（石見）

② 学習指導要領の考え方

- ・ 学習指導要領は最低限の内容が記載されているものであり、それ以上を実施することは可能。(野津)
- ・ 学習指導要領は絶対にダメということは書いていない。それに関連するようなことがうまく入るように記述されている部分が多い(矢崎)
- ・ 特活・道徳の指導要領を読み込むと心肺蘇生や AED という用語自体は入っていないが、今やろうとしている教育自体は位置づくように記載されている(野津)
- ・ 学習指導要領に合わせ教材を作成するにあたり、小学校は心肺蘇生や AED に関する項目がないが、今後の普及活動で 20%や 30%の学校で実施をしたり、学習指導要領へ載せたりすることは可能か?(立川)
 - 学習指導要領に載せるということを目指しているという部分について全面的に出したり、直接的に伝えてしまった場合、限られた学校以外は受け入れが難しいだろう。(野津)
 - 小学校の保健体育の結び付け方(矢崎)
 - 小学校 5 年・6 年の目標「健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする」→ AED や心肺蘇生もここに含めることが出来る
 - 病気の予防やけがの防止についても同様の考えで AED や心肺蘇生を含めることが可能
 - 学習指導要領としっかり関連付けをし、多くの学校に採用されるのが本委員会の目標となる。特に指導案については、どこの学校でも取り入れやすいような作り方をする必要がある。(石見)

③ 用語について

- ・ 学校の先生方が使用している用語を徹底していく
 - 先生 → 教師、手技→技能 の方が良い(野津)
 - 展開(座学)、展開(実習)→導入 が一般的(矢崎)

④ 指導案の形式について

- ・ 導入→課題把握→問題追及→問題解決の展開→まとめとなる(矢崎)
- ・ 文科省作成の「生きる力」の最新版の指導資料を標準版とし、その形をとることが無難である(野津)

⑤ 普及戦略について

- ・ 全国普及をするためのコンセプトとそれに伴う戦略をはっきりさせるべき。
 - 「新学習指導要領へ準拠した内容」は最も説得力のあるフレーズ(野津)
- ・ アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)を指導案の中に明示する。
 - 上記「新学習指導要領へ準拠した内容」について、どこが準拠しているかという話

題となった際に、内容だけ沿っているのではなく、知識の活用・思考判断・話し合い・発表などの活動を学習指導案の中の展開で見えるような指導案を開発する必要がある（野津）

- ・ 新学習指導要領へ準拠している＝発達段階を踏まえている
 - 小学校・中学校・高等学校の指導内容についてどこに違いがあるのかを明確とすることが大切（野津）

⑥ 評価について

- ・ 保健の技能がどのようなものを捉え指導案を作成すると、最新の考え方へ対応しているといえる
 - 体育の評価は「できる・できない」であるが、保健の場合は「できる・できない」は評価の対象としにくい。（野津）

⑦ 指導案の作成について

- ・ 学習指導要領へ記載のないことを実際の授業で実施することは非常に困難なため、**学習指導案の中に学習指導要領との関連付けをしっかりと明記する必要がある**（矢崎）
 - 小学校体育：保健 けがの防止・病気の予防など
 - 学習指導要領の内容カッコ3の○○のイなどと指導案にも明記する
- ・ 全国学校安全教育研究会で実践した指導例（矢崎）
 - 小学校 理科：人体 心臓の動きと心肺蘇生を関連づけた授業
 - 中学校 英語：外国人が日本で倒れている際に、どうするかという観点で授業を実施。
- ・ 小学校「けがの防止」の学習指導要領へ「**近くの大人に知らせることが大切**」という言葉がある。（野津）
 - 【指導後に他の授業へつなぐ場合の例】
 - 保健：心臓が停止した人や町中でうずくまっている人がいたときに人を呼べるかという話に持っていく
 - 道徳（生命の尊重）：保健の勉強から心臓停止の人という時に呼べるかという導入から授業に入る
 - 横断的な授業が今回の新学習指導要領のコンセプトとして重要視されている
- ・ つくば・千葉・埼玉の実践例と、これに関する学習指導要領の結びつきをどなたか一人が専任で担当するのがよいのではないか。（矢崎）
 - 最終的に実践例について学習指導要領の表現を少し優しくし示すことが良いのではないか
- ・ 小学校：**教科等の横断的授業の展開を基に先生へ興味を持っていただくには児童へ命の救い方（心肺蘇生）の基本的なことを考えさせていくために、理科や保健体育での授業のポイントや道徳や特活で授業を行う際の位置づけが必要となる。**（吉原）
- ・ 中学校：障害の防止という単元で心肺蘇生を学んでいく際にどのような位置づけで心肺

蘇生をいれるかを、まとまりの中で示していくことも大切である。(吉原)

- ・ AED をスキルの・技能的なものとして位置づけ応急手当という学習のまとまりの中で知識技能と思考判断、表現と主体的に学習に取り組む態度が子供たちに身につけていくといった学習の流れを作っていたら良いと思う (吉原)

➤ 技術は高校までに身に付けることであるため小学校はそこまでいなくても良いのではないか (立川)

【2時間で授業をする場合 (案)】

→ 1時間目：気構えや基本的知識の学習など 2時間目：少し実践につながる授業 (吉原)

→ 1時間目：学習指導要領に準じたもの 2時間目：公開授業 (立川)

➤ 中学校・高等学校については、解説でもほぼ同様の内容といえる。その中で、高等学校の学習指導要領解説では「複数で」という表現が入っているが、「触れるようにする」という扱いとなる (野津)。

- ・ 中学校：より科学的に → これまで作成してきたものをまずは基本として位置付けて工夫しても良い (野津)

➤ 学校により理解度に幅があるため、授業としてどのくらいの難易度かを設定し、説明の優しさなどを定めていく。学力の高低に関わらず、授業が成り立つラインを検討する必要がある (平館)

- ・ 高等学校：より総合的に → 社会科学的な理解ができるということ (野津)

◆ 心肺蘇生・AEDに関するタイムライン (案)

- ・ 心停止の医学的経緯についてのタイムライン
- ・ 心臓突然死の数についてのタイムライン
- ・ 世界の社会的変化についてのタイムライン

→ ガイドラインの変遷についてのタイムラインはどうか？ (立川)

- ・ ガイドラインの枠を超えたほうが良い。(石見)

→ ガイドラインの変遷と都道府県の救命率変化についてのタイムラインという見方はどうか (立川)

➤ 市民公開講座を行う際、1つのキーとして話す過去20年間の変化も資料になるのではないか。(坂本)

【過去20年間の変化】

- ◆ 病院外で心停止となった人の社会復帰率は2倍くらいとなってきている

→ 上記理由として、バイスタンダーのCPR実施率が10%→40%へ向上している

→ 講習会增加するにつれバイスタンダーが増加した。

- ◆ 救急救命士の制度が成立

→ 初め10年は成果が見られなかったが、10年くらいが経過し、彼らが

経験を積むことにより、医者へ連絡をしなくても電気ショックが行えるようになり、救命率は飛躍的に向上した

- ◆ 国内に約 60 万台の AED が設置されていることで、それを利用し助かる人が増加
 - このような内容をアクティブに考えさせられるような授業があればよいと考える
- ・ 高校生の思考として、それがなぜかということ。そして、もっと良くするためにはどのように改善すればよいかというものがある（野津）
- ・ 上記プロセスだと、
 - 質問「20 年前の 2 倍となった社会復帰率をさらに向上させるとしたら、あなたが出来る役割は？」
 - 生徒回答予想「心肺蘇生が出来て AED が使えるようになること」
 - という結論が出ることで現実に今後のモチベーション向上に意識を持っていくということでしょうか（坂本）
 - 高校生の場合は「あなたが、あなた自身が」ではなく「社会が、どういう社会が必要なのか」と考える（野津）
 - 市民公開講座などで最初の 20 分前ぶりをやってくださいという依頼があると、20 年の歴史を話しながら双方向の対話をするところがあるので、そういう授業を作り上げていくということ（坂本）
- ・ タイムライン（年表）があれば、先生が正にそこから話を膨らませてくれそうなきがする（石見）
 - 例えば、
 - ① 生存率向上のグラフ
 - ② AED の普及台率が増加したというグラフ
 - ③ 第三者の救命率実施率向上のグラフ
 をみた結果と関係を 5 分で説明しなさいということをやらせると自分で一生懸命かんがえるということですね（坂本）
 - さらに尺を伸ばすと、
 - 心肺蘇生は 50～60 年前に見つかった。日本の医療は感染症の予防から始まり、だんだん成人病となり、その予防の果ての 1 つが AED である。
 - 救急医療の発展は外傷から始まりだんだん内因性の原因に向かっていく。突然死はまさにその 1 つである。
 などあるとさらに話が膨らむだろう（石見）
 - がん教育なども考えられるような機会となっても良いだろう（石見）
- ・ 高校生は、あまり技術・BLS・一時救命処置の所だけに特化しないのが大事かもしれない（石見）

⑧ その他教材について

- ・ 通常教師は授業をする際教材研究を行うが、準備の時間がない時は学習指導案などがパッケージ化されたものがある（濱田）
 - プレゼンテーションは子どもに示すものと、それに準じた台本があり、正しい知識を教えなければならないもの（数値データなど）についてはプレゼンテーションの画面に出れば授業に使いやすく普及する際に便利だと考える
 - プレゼンテーションソフトの規制なども考えなければならないが、1本授業モデルを作り、そのスライドを学習指導案にバラし、授業展開や話し方について参考となるものを作る。
- ・ ただ資料を見ながらの説明では、アクティブに子どもへ伝わらないため、見せたものが子供にアクティブに伝えられ、先生も把握できているというような教材を作ることには可能なのか？（濱田）
 - 心肺蘇生・AEDの基本骨格はスライドやDVDなど何かしらの媒体でパッケージ作っていく（石見）
 - 基本骨格の一部を抜き出し、先生方が使用しやすい形に使えるようなものにすればよいと思う（石見）
- ・ 臨床救急医学会の学校へのBLS教育導入検討委員会では、パワーポイントをHP上で公開していたが、学校の現場では以外とPCが利用できないところが多く、結果としてDVDの中にスライドの資料を盛り込んだ経験がある（石見）
- ・ 現場では、パワーポイントを使うことはもちろんテレビにつなげDVDを見るということも簡単にできる（村井）
 - 1クラス程度であればテレビで十分なので、DVDの方がありがたい
 - DVDや指導案というのは、例を挙げると基本的なカレーライスづくり方であり、具材をどうするかということは学校の独自で教材などで選べるような形が良いと思う。高校生のタイムラインの授業においても、色々なデータを資料とし、それをどのように料理するかは学校に任せ、教員が学校や生徒の実態に沿って授業を組み立てられるのがありがたいと感じる。
- ・ 作る教材として
 - 一次救命処置（型にはまっている内容）についてすぐに使える教材
 - 上記に付随する学習指導要領と組み合わせた教材があると良い。まずはベースを決めること。そしてそれに付随して他の教材を作成していく（石見）
- ・ 人工呼吸についてはそのように扱えばよいのか？（立川）
 - 時間や資機材の兼ね合いより、時間が取れるならやっつけようというしかないと思う（石見）
 - 50分の授業の中で、子どもがおぼれたりした場合、人工呼吸が有効であるという話をすると生徒が高い関心をよせ、だからやらなければいけないという流れに持っていくことが出来る。実習が出来ることがより望ましいが、授業ではそこまでで

はなく、触れる程度で良いと考える（村井）

- 学習指導要領の解説より（坂本）
 - ➔ 中学校：「基本的には胸骨圧迫・AED の使用などの心肺蘇生法」という記載の為、人工呼吸も必要だという知識があれば、技術は胸骨圧迫のみでもよさそうである。
 - ➔ 高等学校：人工呼吸に関する記載が中学校より明確に記載されていることや水泳などとの連携をはかりともあるため、人工呼吸も含めて学ぶことのできるパッケージは必要だと考える。切り口については、文系の方は社会科学的な切り口、野球部やサッカー部が強いところは実技ができるようにするなど選べるようにするのも良いと思う
- ・ ライオンの歯磨き大会の授業は、40 分の授業ができる DVD があり、教師は教材研究をすることなく歯磨きの授業ができるというものがある。（岸平）
 - 教材研究をしないということは教員としては良くないとは思いますが、DVD にそっていくとシンキングタイムがあり、隣の人と話し合う時間があり、自分の歯茎を観察する時間があったりと、現在の学習指導要領を意識した内容になっているためとても便利だと思った。
 - 全編再生すればその通りに進み、教員がアレンジをして一部を使用するというのもできる教材だった。
 - 児童は、隣の人と意見交換をすることやグループで話し合うことに慣れているため、DVD を利用した授業は非常にスムーズに進められた
- ・ **先生自身が指導をできることが最終的な目標の為、やはり先生が指導できる形に持っていくことが大切である**と考える。そのため流すためだけの DVD は避けたい（矢崎）
 - 完全に流すだけではなくバランスが大切（石見）
 - ライオンの教材も DVD の前後にももちろん導入とまとめは教員が行う内容である（岸平）
- ・ 制作コンテンツの中の副読本が授業の教科書にあたり、教科書に付随した教師用の指導書に解説や指導案の具体例があるので、まずは骨格として指導案付きの解説書を作るというイメージととらえている（矢崎）
- ・ 文科省の学校における安全教育についてかなり重要な部分のコンテンツをまとめ、かつパッケージ化された教材を使い普及していくというのは国としても命を守っていくこと、そして教材としても非常に重要視されるものである（文部科学省 落合）
 - 学習指導要領については、国に定める基準があるため、学習の位置づけや根拠としてどのように書かれているのかが一つの目安となる。
 - 安全推進室の立場としては非常にいいコンテンツを開発しようとしていると見受けられる。
 - 指導要領に沿って指導案を作成し、医療としての裏付けをしっかりとしているのが良い。

4-4 まとめ（石見）

- ① ゴール：できるだけ多くの学校に心肺蘇生・AEDの教育が導入されていくようにする
- ② 大きな特徴
 - ・ 小学校：学習指導要領に明確な記載がない中、どういう風に紐づけていくか、導入のきっかけとなる指導案を作っていくことがポイント
 - ・ 中学校：基本的には今の技能の所を中心にコアな部分を生かしていく
 - ・ 高等学校：より発展的に社会科学的な取り組みなどへ膨らませられることのできる指導案を作成していく
- ③ WG チーム分けについて
 - ・ 医療側のメンバーは、教材作成時、基本のBLS情報や必要な情報についてチームへ提供をしていく。
 - ・ 教員側のメンバーは、自身の専門に分かれて指導案を作成していく。

5. 次回予定

WG：2019年8月10日 終日

※役割や事前課題（お願い事）について後日連絡